

最近の県内景気動向

平成14年10月30日
日本銀行水戸事務所

【概況】

輸出の回復等を背景に、製造業の生産が持ち直しているが、個人消費は一進一退を続けている。加えて、企業の設備投資及び住宅・公共投資が不冴えを託っており、こうした中、生産の海外移管や流通再編の動き等もあって、県内では業績不振を余儀なくされる先が多く、総じて低調を続けている。

【消費】

◎大型小売店の売上

大型小売店（県内13か店）の売上は、引き続き前年を下回る状態を続けているが、このところ小幅の落ち込みに止まっている。（9月前年比▲2.1%）。すなわち、絵画等高額品や法人向け事務用品、紳士服等の不振が続いているが、ハンドバックや婦人服等ブランド品の好売行きに加え、プロ野球優勝記念セールの集客効果等もあって、衣料をはじめ、身の回り品や食料品が前年を上回った。

◎9月の乗用車新車登録台数

9月の乗用車新車登録台数（除く営業用乗用車・軽自動車）は、普通車（前年比▲9.4%）が減少を続けたものの、新車を中心に小型車（同+19.0%）が高い伸びを示し、全体では4ヶ月ぶりに前年を上回った（同+7.4%）。

◎9月の家電販売

6・7月と一時伸びを鈍化させていたが、その後堅調さを取り戻している。品目別には、洗濯機（乾燥機能付）やテレビ（薄型プラズマディスプレイ等）が好調を続けているほか、出遅れたエアコンが8月以降盛り返しをみせ、加えてプリンターやデジタルカメラ等パソコン周辺機器も高い伸びを示している。

◎7月のレジャー関連状況

旅行業者の予約状況をみると、海外旅行は昨年の米国テロ事件の影響が薄れ、取り扱件数としては一昨年並みまで戻しているほか、国内旅行もまずまずのレベルとなっている。もっとも、取扱高は、旅行日数の短縮や近場の旅行が多くなっていることから、伸び悩んでいる。

【公共・住宅投資】

◎公共工事請負額

9月の公共工事請負額は、大学等の校舎増改築工

事のみられた国（前年比2.2倍）、公団・事業団（同3.4%）等が前年を大幅に上回ったものの、財政面の制約もあって、県（同▲9.4%）、市町村（同▲35.5%）が大幅な減少となったことから、全体でも前年を下回った（同▲9.5%）。

◎8月の新設住宅着工戸数

雇用不安や所得環境の悪化を背景に、主力の持ち家（前年比▲10.2%）が千戸割れとなるなど、このところペースダウン気味となっている。このため、ハウスメーカーでは、割引キャンペーンの実施等営業姿勢を強める一方、贈与税の見直しによる需要喚起に関心を寄せている。

【生産動向】

鉱工業生産・出荷（7年=100、季節調整済）は、一般機械、電気機械を中心に4～6月上向きに転じた後、7・8月は前年をかなり上回るレベルに達した（8月：生産指数前月比：▲1.3%<原指数前年比：+3.0%>、出荷指数前月比：+6.7%<同+8.2%>）。この間、在庫調整が進展し、春先以降在庫水準は平成10年以降としては、もっとも低いレベルを続けている。

【企業倒産】

経済情勢に格段の変化がみられない中、9月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数（9件、前年<19件>）が約2年ぶりに1桁台にと止まったほか、金額（23億円、前年<61億円>）も大幅に減少し、一転して小康状態となった。

茨城県主要経済指標

（前年比、%）

	13年度	14/7	14/8	14/9
大型小売店売上高	▲3.9	▲8.1	▲2.5	▲2.1
乗用車新車登録台数 [除く軽]	▲3.9	8.5	▲2.2	▲7.4
[含む軽]	▲4.6	▲3.8	▲0.7	10.2
公共工事請負金額	▲8.0	8.8	▲27.2	▲9.5
新設住宅着工戸数	▲0.4	7.3	▲9.4	n. a.
[持家]	▲10.9	▲2.8	▲10.2	n. a.
産業用電力消費量	▲4.1	▲2.7	3.6	7.8
[大口電力]	▲4.2	▲2.6	3.8	8.6
鉱工業指数 [生産]	97.5	103.2	101.9	—
鉱工業指数 [出荷]	91.4	94.2	100.5	—
鉱工業指数 [在庫]	78.4	75.6	79.3	—
有効求人倍率 (倍)	0.63	0.50	0.51	0.52
倒産件数 (件)	235	24	20	9